5　試験結果の記載方法

⑴　結果は、４⑸の標準信号発生器の出力を電力に換算して求める。

⑵　電力の絶対値をW単位で、定格（工事設計書に記載される）空中線電力に対する偏差を（％）の単位で（＋）又は（－）の符号をつけて記載する。

6　その他の条件

⑴　空中線電力は一般に平均電力で規定することになっているが、この測定法では包絡線の最大値を求めている。試験の合否判定にはその考慮を行っている。

⑵　スペクトル分析器を予め較正しておき、標準信号発生器を使用せずに電力を直接測定することも可能である。

九　周波数偏移⑴

1　測定系統図



2　試験機器の状態

⑴　指定のチャネルに設定して、送信する。

⑵　変調は通常正弦波の1,000Hzとする。

3　測定操作手順

変調入力を、標準変調度（最大周波数偏移の70％）を与えるレベルから飽和するまで変化して、搬送波周波数からの周波数偏移について、（＋）と（－）側の測定をする。

4　試験結果の記載方法

周波数偏移の最大値について、（＋）と（－）側をkHz単位で記載する。

十　周波数偏移⑵　その１（信号重畳法）

1　測定系統図

